八碁連だより

10 月号　第 338 号
発行年　令和元年 10 月 1 日
発行所　八王子囲碁連盟
住所　八王子市大和田町
3-17-42-110
電話　042-686-1762
発行者　成田　滋
編集者　森本　康男

八王子囲碁連盟の目的
八碁連は市民が、伝統文化である囲碁を通じて親睦を図り、健康が維持できるような機会を提供し棋力の向上を目指すとともに、囲碁の啓蒙と普及に努めることを目的とする。

目次

☆巻頭言　　老いを楽しく生きよう
中野囲碁同好会　　磯部信広･･･１
☆第３回多摩地区 26 市町対抗囲碁団体戦で優勝･･･２
☆第 69 回八王子市民文化祭囲碁大会の開催のご案内･･･３
☆日本棋院八王子支部コーナー･･･４
･ペア碁大会の結果報告･･･４
･囲碁研究会への参加者募集･･･５
☆活きいき大会の成績報告･･･５
☆令和元年８月理事会報告･･･６
☆投稿：囲碁案内人連絡会の活動（その２）･･･７
☆随筆：日本アルプスの急登は････９
☆編集後記･･･11

八碁連 HP　https:/hachigoren.com

巻頭言

老いを楽しく生きよう

中野囲碁同好会　磯部信広（元八碁連会長）

私と八碁連の関係は、初代会長熊崎正一氏がとり持つ縁でした。それは平成７年４月発行の日本棋院創立七十周年有段者名簿でした。熊崎会長は、会の拡張を日夜考えていたようで、この名簿に眼を通した当時の私が四段で登録されているのを見出し、中野同好会の会長に連絡し、

その呼びかけで会員となったのです。

私は平成 23 年４月に会長の望月成一氏の後をついで会長に就任しました。その年は忘れもしない 3 月 11 日は、あの東日本大震災のあった年でした。当時の本会の問題意識として、会の名称(長すぎて紹介しづらい)、会員の資格(年齢 60 歳以上)、大会の活性化(七段参加者の減少)などでした。これらの問題に対処するため規約に則り諮問委員会を設置し、有識経験者に委嘱、検討、答申をいただき、会の名称を別称であった八王子囲碁連盟(略称：八碁連)、年齢制限の撤廃、段級位規定(これまでは七段どまり)を改正し八段位を設けて各種大会に活力をつけたのでした。

ただ残念なのは年齢制限を撤廃したものの若い人たちがいまだに加入していないことが気がかりです。これは何も囲碁に限ったことではありませんが、何としても会員の若返りを進めなければなりません。関係者の青少年育成事業の取り組みには感謝申し上げます。また、少しずつ増加傾向にある女性の参加はこれから大いに期待したいところです。八段の高段者については、昇段条件(延べ６回優勝)を厳しくしてありますが、それを見事に克服し数名の方が昇段されたことは改正の成果があったと喜んでいます。

一方であれほど華やかで賑わっていた北野同好会が解散してしまったと聞き残念でなりません。これからはどの地区でも似たような事態にならないよう配慮していきましょう。幸い本会は創立 30 周年を迎え立派な記念誌も発行され、八碁連の過去(歴史)と未来が展望されています。

年々、高齢化がすすみ年寄り世帯が多くなっていますが、囲碁に限らず、麻雀、カラオケ、写真などの趣味を生かし楽しい人生を送ろうではありませんか。

第３回多摩地区 26 市町対抗囲碁団体戦で優勝　団長 高取民治（八碁連副会長）

第３回多摩地区 26 市町対抗囲碁大会が去る９月１日に調布市で開催されました。最初の年が８市、その後は 16 市となり今回

は 26 市町となり、ほとんど全部の市が参加される大会となりました。この令和元年最初の優勝ということでこれを快挙と呼ばずにいられません。しかし、勝負は水物で組み合わせ次第によって順位が変わったかもしれません。今回の勝因は対戦相手の巡り合わせと言えるでしょう。特に、４回戦がどこと当るかがカギとなります。１回戦、２回戦、を 10 勝１敗で勝てたのも得失点差で有効だったと思います。今回のメンバーはすごかったと思います。来年はどんなメンバーが名乗りを上げるか興味津々です。今年参加された方々は下記の通りです。お疲れ様でした。

	囲碁歴	棋　　風	好きな棋士
主将(無差別):名取豊彦	60 年	バランス派	井山裕太
副将(無差別)：鈴木信義	68 年	力戦タイプ	謝衣旻
３将(無差別)：小川浄二	65 年	攻守バランス派	故大平修三・林覚　故
４将(シニア)：井上栄次郎	55 年	厚みの棋風	武宮正樹･井上裕也
４将(シニア)：吉澤　實	65 年	バランス派	小林光一
５将(五段枠)：三島敏明	43 年	攻めを主体にした厚い碁	高尾紳路
６将(四段枠)：柳豊太郎	50 年	ファジー	趙治勲
７将(三段枠)：松本健彦	60 年＋	積極的？(読み不足)	故藤沢秀行
８将(二段枠)：棚原英治	50 年	自分では手厚い碁	高尾紳路
９将(初段枠)：鳥山光昭	32 年	攻め	一力遼
10 将(級位者)：馬場楓真	2 年	攻めの棋風	現在はいない
11 将(級位者)：折谷範子	30 年	以前は守り、今は攻め	武宮正樹･小長井克

(敬称略)

第 69 回八王子市民文化祭囲碁大会の開催

下記の通り八王子市文化祭囲碁大会を開催しますので奮ってご参加下さい。

･**日時**：令和元年 11 月３日(日・祝)午前９時 30 分～午後５時 00 分

･**会場**：東浅川保健福祉センター　４階：5･6･7･集会室

・**目的**：八王子市民及び関係者の親睦と市民文化の向上を図る
・**定員**：先着 150 名
・**参加申込方法**：八碁連会員の方は同好会長に申し込む
ホームページのメニューにあるフォームからの申し込み
成田滋宛メール shigerunarita@gmail.com　Fax042-686-1762
・**参加申込締切り**：令和元年 10 月 19 日(厳守)
・**参加費**(当日払い)：¥1,000　高校生以下は¥500
・**主催**：八王子市民文化祭実行委員会　　八王子市
・**後援**：八王子市学園都市文化ふれあい財団　　日本棋院　日本棋院八王子支部
・**協賛**：八王子文化連盟
・**主管**：八王子囲碁連盟

第 30 回八碁連囲碁大会のお知らせ

・**主催**：八王子囲碁連盟　　後援　日本棋院　日本棋院八碁連支部
・**会場**：東浅川保健福祉センター　４階
競技方法　４～５クラス別のハンデ戦　　八碁連方式
・**会費**：¥1,000-(昼食代を含む)
・**申込**：各地区同好会長を通して
・**申込先**：理事木河専(競技担当)宛て
Tel/Fax:644-2279　　メール m-kikawa@mtj.biglobe.ne.jp

☆三段以上

・**日時**　　11 月 10 日(日)　午前 9 時 10 分から受付
・**申込期限**　10 月 27 日までに上記の申込先に
・**参加資格**　三段以上の八碁連会員

☆二段以下

・**日時**　　11 月 24 日(日)　午前 9 時 10 分から受付
・**申込期限**　11 月 10 日までに上記の申込先に
・**参加資格**　二段以下の八碁連会員

日本棋院八王子支部コーナー　　常任幹事　　南　正一郎

１．ペア碁大会の結果報告

去る８月 27 日､東浅川保健福祉センターにてペア碁大会を行いました。何せ初めての試みであり、どうなることやらとの思いもありましたが、14 組の皆様の参加を得て、緊張した中にも和気あいあいとした雰囲気があり、皆様大変楽しまれたご様子でした。“面白かった、またやろう”との声もチラホラありました。試合は日本ペア碁協会のルールに従って、４回戦のスイス方式で行いました。持時間は一組 35 分でスタートしましたが時間切れの対局がいくつかありましたので途中より 40 分に変更しました。以下、入賞された方々には些少ながら賞品を差し上げました。

優勝	柳　豊太郎	七段	折谷範子	初段	(大和田)
二位	浅川武二三	二段	吾妻富子	８級	(恩方)
三位	矢作忠孝	五段	浅野恵美子	二段	(大和田)
七位	大川倭男	七段	瀬沼美智子	５級	(恩方)
B.B.	宮地三男	二段	小倉小代美	９級	(長房)

２．　囲碁研究会への参加募集

八碁連支部では、楽しみながら強くなっていただくための機会の一つとして３年前より「六段の会」と称して勉強会を行っています。今後「囲碁研究会」と改称します。講師は吉澤實八段と三島敏明七段で、各自対局のあと、一局を選んで講師が大盤解説し、皆で検討します。プロとの指導碁の結果解説や AI との対戦があります。七段以上の方々も気楽にお立ち寄りいただき、ご指導をいただいています。

- **開催日時**　毎週木曜日を基本とする
- 会　場　東浅川保健福祉センター　４階集会室
- **募集人員**　約 10 名(四段～六段)
- **会　費**　入会金　¥1,000-　随時¥1,000-　(六段以下の方のみ、また既に入会費を支払ったかたは不要)
- **連絡先**　南　正一郎　Tel:663-5446　sminami0003@yahoo.co.jp

・締　切　　先着順

なお、10 月は 10 日・24 日・31 日、11 月は７日・14 日・21 日・28 日の開催を予定しています。（何れも第３集会室）

活きいき大会成績報告

☆南大沢大会

・開催日　　令和元年９月１日　於：柚木中央市民センター

・主催者　　南大沢囲碁同好会

・参加者数：79 名

浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	長房	川口	南大沢	初心者	非会員
3	15	4	3	10	1	0	13	4	15	3	8

大会成績

Ａクラス(八段～三段)：27 名

優　勝：矢島幾朗(南大沢)七段　準優勝 小嶋英基(長房)七段

三　位：佐々木胖充(大和田)四段Ａ

Ｂクラス（三段～１級）：25 名

優勝：成田滋（大和田）三段→四段　準優勝：津田芳明（非会）二段

三位：尾崎健二（恩方）１級

Ｃクラス（２級～９級）：27 名

優勝：鷹取宏（初心）４級→３級　準優勝：小俣一男（初心）５級６

三位：澤田眞理子（南大沢）４級

☆なお、長房大会の成績報告は 11 月号に掲載します。

令和元年８月度理事会報告

・日　時　令和元年８月２４日　午前９時

・場　所　東浅川保健福祉センター

・議事事項

１　大会の独立採算制について・・・大会参加費を徴収する大会に置いては原則的に独立採算性とする・

2　八碁連だよりの外注について･･･２ケ所からの外注の場合の見積書を検討したが費用がかかりすぎる。従来とおり作成方法とする

3　臨時総会の開催について･･･令和元年 11 月５日火曜日午後１時 30 分～５時とする。議案は役員の任期延長などであるが、同好会長より他の議案を募集する。

4　伝統文化親子教室助成金の会計処理について･･･囲碁案内人連絡会幹事の武中章三氏より資料をもとに説明があった。今後、指導謝金(報償費)は八碁連会計担当者より支給することとする。但し、報償費の内訳は従来通り囲碁案内人連絡会が作成する。

5　囲碁案内人連絡会の八碁連組織での位置づけの説明･･･会長より図を使って説明があった。

6　会員獲得と初心者研修や講習のための同好会支援について･･･　来月の理事会までに協議し、それを総会に諮ることとする。

7　八碁連支部との級位認定大会のセンター使用料の折半について･･･常幹事南正一郎氏より収支報告書を提出してもらい決める。

8　第 69 回八王子市民文化祭囲碁大会の役割分担について･･･昨年は競技委員を含め 23 名であった。本大会役員編成は成田会長･高取副会長･木河理事が原案を作る。なお、大会会計は高取氏とする。

次回の理事会　　9 月 28 日(土)　於：東浅川保健福祉センター

･終了後、大和田市民センターで八碁連だよりの印刷と発送を行う。

（文責：成田）

囲碁案内人連絡会はいかに活動しているか

その２ 外部資金の活用　　囲碁案内人連絡会長　成田　滋

市民の積極的な社会貢献活動を支援するために、国や地方自治体は各種の助成金や支援制度を作っています。国は市民が助成の趣旨に合致する資金を活用することを期待しています。私たちはそれを堂々と活用する権利があります。もしこうした仕組みを利用しないならば、せっかくの資金は道路工事やらの公共事業に回されてしまいます。

私的なことですが、研究者の端くれとして私はこれまで多くの助成金や

補助金に応募してきました。活用してきたのは、競争的資金といって「これこれ、しかじかの研究をしたい」ということを訴えて、他の研究者と獲得競争をするのです。その一つが科学研究費助成事業というものです。国にはこうした資金を用意して、多くの研究者に応募させ新しい研究を奨励しています。資金がないと教育や研究活動は困難なのです。黙って口を開けていても資金は入ってきません。幸いにして、退職するまで少ないときは 50 万円から、多いときは数千万円の資金を獲得することができました。「求めよ！さらば与えられん」なのです。

企業でも資金の活用では同じことがいえるはずです。銀行から融資を受ける場合も、企業内での新しいプロジェクトに応募するときも、趣旨を文章化し周到に練った企画書を作り、審査する者の心をとらえる努力します。こうして審査に通ったプロジェクトは、社会的に有意義だと認められた勲章のようなものです。当然ながらプロジェクトを推進する者には大きな誇りと責任が課せられます。それを躊躇するようでは組織の発展はありません。

囲碁案内人連絡会は平成 26 年度以降、毎年文化庁へ助成金を申請し交付を受けているのはご承知の通りです。助成金によって放課後子ども囲碁教室などの数が増えています。指導者である案内人の地道な活動を助成金が支えていることも見逃すことはできません。子ども囲碁大会の参加者数もまた堅調な伸びを示しています。市や教育委員会が大会を後援し、会場で子どもや保護者を激励してくれるのは、この大会が社会的に認知され、それがしっかりと定着しているからです。しかし、子どもが将来にわたり囲碁を愛好し、囲碁の普及を担う世代となるかは長い目でみていく必要があります。教育とは今日、明日に成果が見えるものではありません。地道な営為が子どもの能力を開花させるのです。

囲碁案内人連絡会に登録し教室活動で指導する案内人は 58 名、事務局は３名で運営されています。事務局は、助成金申請作業はもちろん、案内人が各教室に赴く回数を記録し、相応の教材費を支給する業務も行っています。平成 26 年度の子ども囲碁教室などは４ヶ所でした。現在は 16 ヶ所となっています。文化庁からの助成金は、平成 30 年度は 395,000 円、平成 29 年度は 407,000 円、平成 28 年度は 293,340 円、平成 27 年度は、335,000 円、平成 26 年度は、88,000 円となっています。案内人は、毎回受け取る教材費のおよそ２割を自主的に八碁連に寄附しています。この浄財が子ども囲碁大会の運営に役立っています。

毎年、囲碁案内人連絡会は定例会を開き情報交換を行っています。去る 9 月 17 日の会議では、各校における子ども囲碁教室や部活の実施状況と課題、放課後子ども囲碁教室などの新たな開拓の方策やフォローアップ体制について話し合い、さらなる活動を期することを確認したところであります。

終わりに、囲碁案内人連絡会は八碁連の目的にある「囲碁の啓蒙と普及に努める」という役割を担う大切な部門です。ご理解とご支援をお願いする次第です。

随筆

日本アルプスの急登は　長房囲碁同好会　池口隆久（筆名：赤石五郎）

日本百名山の紹介をテレビで見ていたら、北アルプスの三大急登の一つ燕岳へ登る途中の合戦小屋までの登りだという。あと二つはどこか分からないが、南アルプスの三大急登はどこか考えてみた。

第一に白州から駒ケ岳への尾根道を挙げたい。特に駒ケ岳神社から五合

目までの登りがきつい。今では五合目小屋は廃屋になってしまったらしいが、駒ケ岳に登るたびに必ずバテこんでしまって、五合目小屋の古谷さんのご厄介になったものだから、小屋がなくなってしまって、もうこの尾根から登る自信はない。駒ケ岳にまつわる思い出としては、府中工業山岳部と仙状岳･駒ケ岳と登ったときに、駒ケ岳頂上付近に置き忘れたきたアナグマの尻皮である。地下足袋と尻皮が私のトレードマークだっただけに、残念だった。

第二には、三伏峠に登るルートである。鹿塩から、ふもとまでだけでさえ長い距離だったが、今では塩川までバスが通っているからかなり楽である。それでも、塩川から三伏までの登りはきつい。何回登っても大変だ。一日がかりの登りである。

第三は西沢度から聖平までの急登である。初めて山らしい山に登った時に、島村(学芸大の英語科同旧級生)に連れられて指導を受けながら登ったのが、いつまでも忘れられない。一週間分の食料と寝袋･テント持参であったので、荷物は 40 キロを越えていた。だからこの上りは堪える。その後、彼は東大に転学し、卒業後は IBM に勤め、その後ベンチャー企業を立上げたというからたいしたものだ。もう故人になってしまったが、彼こそ私に山を紹介してくれた恩人である。

両股小屋から北岳に登るのもきつかった。８月 15 日、台風の余波で小雨が横から吹き付ける空模様の中大変であった。それも北岳陵線小屋に泊ればいいのに、通いなれた山道だからとたかをくくり北岳からノートリ小屋まで足を延ばしたのが悪かった。晴れた日なら、北岳から間ノ岳までの尾根道は南アルプスの３千メートルの陵線歩きを楽しめるが、８月 15 日とはいえ台風の余波の日、３千メートルの尾根道は厳しかった。登山者には一人も会わなかった。どこかの山小屋の番人にだけは会ったが･･･。

ノートリ小屋にたどり着いた時には、体が冷え切ってしまっていて、凍死してもおかしくないともいえた。ストーブに 30～40 分ぐらいかじりついていてようやく人心地ついたのが忘れられない。

荒川から池山小屋までの登りもきつかった。大学２年生の文化祭の休みを利用して、出かけたのだ。「四谷･高橋靴店のナーゲルがあるからどこで

も登れるさ」と変に自信過剰だったころだ。芦安から夜神荘までのぼり、夜叉神トンネル･観音経トンネル･を経て、鷲ノ巣から荒川めがけて下降。ここから池山小屋までの登りは、荷物は軽くてもしんどいものだった。とうとうばててしまい、同行の慈恵医大４年生吉野･赤松さんたちのお世話になってしまった。

編集後記

･先月号(NO.337 号)に誤りありましたのでお詫びして訂正します。
巻頭言(竹添文彦氏寄稿)･･[会計」①八碁連の「基礎的「収支」→基礎的収入②　八王子囲碁同好会→元八王子囲碁同好会③平成 30 年度は 57 万円→約 57 万円④文化活動経費→文化連活動費④月毎の会計報告書作成する→報告書を作成する⑤文中の恒等式｛･･･｝の｛　｝(括弧)をとる。
･原稿枚数(寄稿を含む)と頁数の関係で一部は 11 月号に回しました。
･寄稿文には写真付の原稿もありますが印刷はモノクロですので鮮明度が損なわれますがご容赦下さい。　　(文責：森本)